

なぜ、クリスチャンはイスラエルを支援すべきなのか?

アミール・ツアルファティ

- 神のイスラエルを拒絶するクリスチャンへの提言 -

<https://youtu.be/KjDIfl63ky8>

「クリスチャンは、なぜ、イスラエルを支援すべきか？」これは、とても長い間、私の心の中にあったものです。なぜなら、残念なことにクリスチャン達は、イスラエルについて聖書が述べていることに完全に無知であるか、あるいは極端にイスラエルびいきなために、実際、間違っただけでイスラエルを愛し、支持してしまうのです。それで、私はその問題に取り組むのがいいだろうと思いました。大多数のクリスチャンは、なぜ彼らがイスラエルを支援すべきかを知る必要があるからです。彼らはまた、いかにイスラエルを支えるべきかも知る必要があります。ただ聖書がそう言っているから、というだけではありません。そうすると、自分の思い通りに、間違っただけでやってしまうのです。私たちはまず第1に、次のことを理解することから始めたいと思います。

神の御言葉は、イスラエルは間違いなく主が選ばれた国であることを明確に示しています。それには理由があり、また、ある一定の期間のことでもあります。しかし実際問題としては、アメリカおよび世界中の教会全般にわたって存在するイスラエルに関する偽りは、創世記の第3章まで容易にさかのぼることができます。私は非常にたくさんの方を自問していました。罵り言葉の書かれたショートメッセージやEメールが、私のところにどのくらい届くかご存じですか。毎朝、私のところには、そのような種類の「おはよう」メッセージが届くんです。そのうちの1人は、…数週間前でしたが…もっとひどいことを言いました。その男性は、「クリスチャン」だそうですが、彼は「イスラエルを核攻撃すれば、世界の問題のほとんどは解決されるだろう」と確信していました。そこで私はそれに反応して応答する代わりに、教えた方がいいだろうと思いました。「なぜクリスチャンはイスラエルを支援すべきか」しかし実際に、非常に大勢のいわゆる「キリストに従う者」たち、すなわちクリスチャンたちに、イスラエルに反対する立場を取らしめるものは何でしょうか。とても興味深いのです。彼らは今日のイスラエルに反対しているのです。彼らは、今日あるイスラエルは、自分たちが敵対し、戦い、ボイコットし、中傷することができるものだと考えています。そして、聖書のイスラエルとは全く異なるものだと考えています。彼らは両者の間には大きな違いがあると思っています。それは面白いことです。なぜなら、どうして聖書のイスラエルは受け入れられたのに、現代のイスラエルは受け入れられないのでしょうか？神がイスラエルに行われたことを、彼らが完全に見落としているのは非常に興味深いです。過去70年のことでさえもです。彼らは、現代のイスラエルは、実際には何か別のものだと思っているのです。面白いんです。と言うのも、米国の著名な聖書教師がいるのですが、彼はある記事の中で、実際にこう書きました。

「アブラハムに与えられた約束は、その土地に関する約束も含めて、永遠の贈り物として、真の“霊的”なイスラエルによってのみ相続される。不従順な、信仰のないイスラエルではない」

それから彼はこう続けました。

「ユダヤ人の救世主であるイエス・キリストを信じる信仰によって、異邦人は、土地の約束も含め、アブラハムの約束の相続人となる」

さらに、彼は続けました。

「したがって、今日のイスラエル世俗国家は、その土地に対して、目下の神授権を主張できない。しかし、彼らと私たちは平和的な和解を求めべきであるが、それは目下の神授権に基づくものではなく、正義と慈悲と実践的実現可能性の国際原則に基づくべきだ」

これは全くのデタラメです。コーシャの鱈(タラ)です。言うておきますが、これがまさに問題の根源なのです。神からの権利と神の召し、それから神の最終目的を取り除いて、次のように現代の言葉を挿入します。

「正義と、慈悲と、実践的実現可能性の国際原則」私たちは、世界がどんな状態にあるかを知っています。私たちは、世界にとっての「正義」がなんであるかを知っています。それは赤ん坊を誕生させないことです。世界にとっての「正義」は、民主主義を利用して、民主主義を破壊することです。今日の私たちの世にある

正義は、日ごとに、ますます神の御言葉とは完全に正反対のものになってきています。この憎しみには霊的な根源があるのです。それには創世記3章の欺きにさかのぼらなければなりません。皆さんが理解しなければならぬのは、今日、私たちが経験することは、ほとんどすべて、これから読む創世記3章1節から6節の聖句と関係があるということです。

さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。
『あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。』
女は蛇に言った。『私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。』（創世記3章1節から2節）

彼女は訂正しました。彼女は言いました。「ちょっと、違う、違う。神が言われたのは、そうではないの」
神は言われました。

『私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、「あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからと仰せになりました。』（創世記3章3節）

神はただ私たちに警告されたのです。

そこで、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』
そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。
(創世記3章4節から6節)

ごらんのとおり、自由意志が人類に与えられた瞬間から、欺きがそれを利用しました。欺きは、神が言われたことを正確に告げることはありません。それは私たちにも見て取れます…。私たちは今、その牧師がイスラエルについて何と言っているかを読んだばかりです。欺きは、「ほぼ」似たものを提示しますが、厳密には違います。そして、彼は最も重要なことを挿入しました。

「あなたが知らなければならないのは、神があなたにその木から食べてほしくないのは、あなたが神のようになることを恐れているからだ。だから、私はあなたに教えてあげましょう。『さあ、食べなさい。あなたは死ぬことはありません』言い換えれば、あなたは神のようになるのです」

私たちが神の役割を担おうと決断して、神から約束を取り去り、神が約束された定めなど、それらすべてのものを取り去る時、その時、私たちは自分勝手なものを作ってしまうのです。その時に、私たちはキリスト教の指導者でさえ、聖書に全く根拠がないことを教え始めます。真実は…

創世記12章1節から3節

その後、主はアブラムに仰せられた。

「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」（創世記12章1節から3節）

それが真実です。これは神の御言葉であって、アブラハムを通して主が語られたことです。洪水の後、またバベルの塔の後で、主がすべてのことを新しく始められた時に。そして、それが現在、神が人類に働きかけておられる方法です。ひとりの人によって、また、その特定の系図、血筋から出る子孫によって、神がひとつの国を造られるという約束によって。国々ではありません。アブラハムは「多くの国民の父」として知られていました。しかし、ひとつの国が、それによって神が残りの皆さんを祝福するものとなるのです。さて、皆さんも知ってのとおり、イスラエルの民が荒野をさまよっていた時、彼らは信じない国でした。正直に認

めましょう。神が彼らのためにして下さったすべてのことに対し、彼らが大いに感謝をしていたことは一度もありませんでした。しかし、そのことで、神は、彼らに対するご計画に関して心変わりを持たれたでしょうか？絶対にそんなことはありません。実際、彼らの敵は、みんな理解ができませんでした。

「なぜだ。彼らは圧倒的に少人数で、戦う方法もさっぱり分かっていない。これはエジプトの元奴隷だった人たちだ。彼らは適切な武器を持っていない。何もっていない。それなのに！戦ごとに、彼らは勝つ」

そこで、彼らの1人、モアブの王であるバラクは、それは靈的なものであるに違いないと思いました。

「おそらく、私は、自然には彼らと戦うことはできません。私は、それを靈的なものとして理解すべきだ」彼は靈的な戦いを見分けることができるほど頭が良かったのですが、イスラエルの神に立ち向かうほど愚かでもありました。彼はイスラエルをのろうために、ある人物を雇いました。なぜなら、靈的な領域で戦うことだけが、彼が彼らと戦うことができる唯一の方法だったからです。それで、彼はだれを雇いましたか？バラム。その通りです。さて、民数記23章7節から12節で、バラムは山の上に立っています。

バラムは彼のことわざを唱えて言った。「バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から、私を連れて来た。「来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルに滅びを宣言せよ。」（民数記23章7節）

だが彼は言いました。

神がのろわない者を、私がどうしてのろえようか。主が滅びを宣言されない者に、私がどうして滅びを宣言できようか。岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ。この民はひとり離れて住み、おのれを諸国の民の一つと認めない。だれがヤコブのちりを数え、イスラエルのちりの群れを数えようか。私は正しい人が死ぬように死に、私の終わりが彼らと同じであるように。」バラクはバラムに言った。

「あなたは私になんということをしたのですか。私の敵をのろってもらうためにあなたを連れて来たのに、今、あなたはただ祝福しただけです。」バラムは答えて言った。「主が私の口に置かれること、それを私は忠実に語らなければなりません。」（民数記23章8節から12節）

戦いは初日からありました。彼らを呪い、彼らを破壊し、彼らを根絶するために。神には一つのお考えがありました。人々には別の考えがありました。イスラエルを破壊するための戦いは、イスラエルとは何の関わりもありませんでした。それは神に関わっていました。それはイスラエルの神に敵対することです。創世記3章のエデンの園での時と同じです。イスラエルは国家として存在していませんでした。サタンにとって問題だったのは、イスラエルの神、天と地の創造主です。神には、どうやって報復しますか？神のものであるものを破壊することによって。聖書には、「アメリカ合衆国の神」と書かれている場所はどこにもありません。「わたしの名は、『アメリカの神』？」神は、世界全体の神ではありません。しかし、神ご自身を描写する方法として用いられた唯一の国は、イスラエルだけです。では、神と戦うためには、どうしますか？彼らを攻めるのです。とても簡単です。神が祝福された者を、いったい誰がのろうことができるでしょうか。ここでは神の名前がかかっていることを理解しなければなりません。第1列王記8章で、ソロモンが新しく建てられた神殿を奉獻した時…、

第1列王記8章22節から26節

ソロモンはイスラエルの全集団の前で、主の祭壇の前に立ち、両手を天に差し伸べて、言った。「イスラエルの神、主。上は天、下は地にも、あなたのような神は他にありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と愛とを守られる方です。あなたは、約束されたことを、あなたのしもべ、わたしの父ダビデのために守られました。それゆえ、あなたは御口をもって語られました。また、御手をもって、これを今日のように、成し遂げられました。それで今、イスラエルの神、主よ。[これが彼の名前です]あなたのしもべ、私の父ダビデに約束して、「あなたがわたしの前を歩んだように、もしあなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に着く人が、わたしの前から断たれない。」と仰せられたことを、ダビデのために守って下さい。今、イスラエルの神。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたみことばが堅く立てられますように。

(第1列王記8章22節から26節)

第18章では、カルメル山で…

エリヤが民全体に、「私のそばに近寄りなさい」と言ったので、民はみな彼に近寄った。それから、彼はこわれていた主の祭壇を建て直した。エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルとなる」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石を取った。(第1列王記18章30節から31節)

ささげ物をささげるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。(第1列王記18章36節)

エリヤは、アシェラの預言者たちやバアルの預言者たち、イスラエルの極悪王アハブと、その妻イゼベルの
見ている前で言いました。

「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。」(第1列王記18章36節)

彼は言いました。

「あなたがイスラエルにおいて神であり、私があるあなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行ったということが、きょう、明らかになりますように。私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようにして下さい。」(第1列王記18章36節から37節)

マラキ書3章6節

主であるわたしは変わることがない。(マラキ3章6節)

神はイスラエルの民にこう言われているのです。「見なさい。それがわたしの名で、わたしはあなたの神だ。わたしは変わらない。わたしは決して自分の名前を変えない」それが、イスラエルが救われる理由です。そのために、彼らが完全に破壊されることは、絶対にないのです。私は今、イランのムッラーたちや、ソマリア出身の女性議員や、パレスチナ…、今、わたしは彼ら全員に対して言っているのです。「イスラエルは、決して決して滅び失せることも破壊されることもありません」私たちが優れているからではありません。私たちが完璧であるからではありません。それはイスラエルの主なる神のためです。それが神の名であり、神は決して変わることがありません。それゆえ、『ヤコブの子らよ。あなたがたは、滅ぼし尽くされない』(マラキ3章6節) いいですか。もし、それが気に入らないのなら、神にお話し下さい。こう言って来る人たちがいます。「ああ、また、でも、あなたは旧約聖書の話をしている。あなたは旧約聖書しか引用していない。でも新約聖書は…、新約聖書は違います」マタイ15章には、こうあります。

イエスはそこを去って、ガリラヤ湖の岸を歩き、山に登って、そこにすわっておられた。すると、大ぜいの人の群れが、足なえ、不具者、盲人、おしの人、そのほかたくさんの人をみもとに連れて来た。そして、かれらをイエスの足もとに置いたので、イエスは彼らをおいやしになった。それで、群衆は、おしがものを言い、不具者が直り、足なえが歩き、盲人が見えるようになったのを見て、驚いた。

(マタイ15章29節から31節)

そして彼らは? なんと? そして、彼らは、もはやイスラエルの神ではない神をあがめた? 絶対に違います。それは旧約にあり、また新約にあり、それは同じ神です。神は変わり得ないし、変わることはありません。そして神は、イスラエルの神です。

使徒13章。パウロとテモテ

しかし彼らは、ペルガから進んでピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂に入って席に着いた。律法と預言者の朗読があって後、会堂の管理者たちが、彼らのところに人をやってこう言させた。「兄弟たち。あなたがたのうちどなたか、この人たちのために奨励のことばがあったら、どうぞお話しください。」そこでパウロが立ち上がり、手を振りながら言った。「イスラエルの人たち、ならびに神を恐れかしこむ方々。」(使徒13章16節)

彼はいま、会堂の中にいます。彼は、これらの人々がわずか数分で彼を会堂から追い出すかもしれないことを知っています。でも、彼はこう言います。

イスラエルの人たち、ならびに神を恐れかしこむ方々。よく聞いてください。この民イスラエルの神は、私たちの父祖たちを選び、民がエジプトの地に滞在していた間にこれを強大にし、御腕を高く上げて、彼らをその地から導き出してくださいました。そして約四十年間、荒野で彼らを耐え忍ばれました。それからカナンの地で、七つの民を滅ぼし、その地を相続財産として分配されました。(使徒13章14節から19節)

パウロは言います。「よいか。あなたが望むかどうかに関わらず、それは同じ神だ」このイスラエルの人々の神と同じ神。彼が私たちの先祖たちを選んだ方であり、彼がエジプトから彼らを導き出した方であり、彼は、荒野で彼らに我慢された(彼らを養われた)にもかかわらず、彼らが今ひとつだったにも関わらず。いいですか。あのことを言ったあの牧師は、「今日のイスラエルの民は、それほど敬虔ではない」という観点から見ています。彼らは荒野では敬虔でしたか? 皆さんが理解しなければいけないのですが、ここで危うくなっているのは、神の名前だけではなく、救い主のアイデンティティです。

ヨハネ第4章

イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。」(ヨハネ4章21節)

イエスはサマリア人の女性に告げています。

わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。(ヨハネ4章21節)

さあ、イエスがサマリア人の女性に言われることに注目して下さい。イエスは、サマリア人たちに言われま

す。
あなたがたは知らないで礼拝しています。(ヨハネ4章22節)

その時、イエスの言われたことに注目して下さい。『わたしたちは』…皆さんも言ってもらえますか?

わたしたちは知って礼拝しています。(ヨハネ4章22節)

つまり、イエスは実際に、ユダヤ人として語っておられるのです。イスラエルの子として。

救いはユダヤ人から出るので、わたしたちは知って礼拝しています(ヨハネ4章22節)

しかし、もちろんイエスが来られて、彼女に新約聖書の福音を与られます。福音のすばらしいメッセージです。

「真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。["油注がれた者"="キリストス"] その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

(ヨハネ4章23節から24節)

イエスはまず、ご自分をユダヤ人として紹介されました。「わたしたちは知って礼拝しています」それから、イエスは言われました。「さあ、わたしたちは今、罪の解決策を祝っているのですから、聖霊は今、異邦人かユダヤ人かを問わず、すべての信者の内に入って来られます。わたしはあなたに告げましょう。わたしが救世主です。わたしはあなたに言うておきましょう。あなたが霊とまことによって神を礼拝するなら、神殿がどこにあったとか、どこにあったはずだとかに関わらず、それが神が望まれるものなのです」イエスはユダヤ人として世に来られました。皆さんがご存じかどうか分かりませんが、ジェレマイア・ライト牧師は、イエスは最初のパレスチナ人であると言いました。私は、彼がどういう聖書を読んでいるのか知りませんが、ルカ2章21節には、こうあります。

八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。[ヘブライ語では、ヤシュア。"救い"の意味]胎内に宿る前に御使いがつけた名である。(ルカ2章21節)

イエスはユダ部族の出身です。創世記49章。ヤコブの約束についてです。

王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロ [救世主の名前] が来て、国々の民は彼に従う。(創世記49章10節)

ルカ2章4節

ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、(ルカ2章4節)

イエスはエッサイの根株から出た若枝です。イザヤ11章。イエスはナザレのあの会堂で、これを引用されました。イエスはイザヤ61章を読まれました。これは第一人称で語られています。しかし三人称では、イザヤ11章にあります。

エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。その上に、主の霊がとどまる。

(イザヤ11章1節)

はい、主の霊、知恵の霊、はかりごとの霊、知識の霊。

主の霊、知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。

(イザヤ11章2節)

神の七つの御霊です。分かりますね。そして、もちろん、

この方は主を恐れることを喜び、その目の見るところによってさばかず、(イザヤ11章3節)

これはもちろん、救い主のことです。なぜなら、イエスはイザヤ61章からそれを読まれた時に、そう言われたからです。

きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました。(ルカ4章21節)

イエスはまた、神殿で捧げられました。モスクでもなく、カトリック教会でもなく、ヒンドゥー教の寺院でもありません。イエスはダビデの街ベツレヘムで生まれました。ヤセル・アラファトの街ではありません。イエスは神殿で捧げられました。アルアクサモスクでもありません。そして、もちろん、

モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。—それは、主の律法に「母の胎を開く男子の初子は、すべて、主に聖別された者、と呼ばなければならない。」と書いてあるとおりであった。—また、主の律法に「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽。」と定められたところから従って犠牲をささげるためであった。(ルカ2章22節から24節)

イエスは安息日の会堂で説教されました。金曜日のモスクや、日曜日の教会でもありません。当時は教会はありませんでした。当時はモスクはありませんでした。他の外国宗教やなんかと、それを比較したければ、ギリシャの神殿やローマの神殿がありました。それでもイエスは、会堂で説教をされました。彼は安息日に説教をしました。

ルカ4章14節から16節

イエスは聖霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り一帯に、くまなく広まった。イエスは、彼らの会堂で教え、みなの人にあがめられた。それから、イエスはご自分の育ったナザレに行き、いつものとおり安息日に会堂にはいり、朗読しようとして立たれた。(ルカ4章14節から16節)

「いつものとおり」です。初めてではありません。

イエスはユダ部族の獅子です。

黙示録5章5節

すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。」(黙示録5章5節)

ヨハネが天にいた時、つまり、ヨハネが天に引き上げられた時、ヨハネは4章1節で、天に引き上げられました。ちなみに、私たちは、そこが黙示録の中で携挙が起こる場所だと信じています。そして、ヨハネは激しく泣いていました。ちなみに、私が封印がまだ一つも解かれていないと信じるのは、このためです。私たちが4章1節が携挙のことを言っていると考えるなら、第5章でこれらの封印はまだ解かれていないので、当然、私たちはまだ、封印が解かれた時代に来ていないことになります。

巻き物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が[先ほど読んだように、エッセイの根株です]勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」(黙示録5章4節から5節)

イエスが戻って来られようとしているのは、メッカやメディナでもなく、ニューヨーク市でもなく、ソルトレーク市でもありません。イエスはエルサレムに戻って来られます。イエスは、聖書がゼカリヤ書14章で述べているように戻って来られます。

主が出て来られる。決戦の日に戦うように、[エルサレムに、またイスラエルに敵対する]それらの国々と戦われる。その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。(ゼカリヤ14章3節4節)

イエスが戻って来られるのは、唯一、「唯一」と言ってください。唯一、ご自分の民に準備ができている時だけです。あの牧師も含めて、多くの人々は言います。「ああ、イスラエルは姦淫を犯している。イスラエ

ルは不信仰だ」いいえ、イエスは戻って来られます。そして、イエスは彼らを救われます。彼らに準備ができたなら、なぜなら、イエスはエルサレムに言われたからです。『パールッフ、ハバー、ベ・シェーム、アドナイ』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。

あなたがたは『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたが今後決してわたしを見ることはありません。(マタイ23章39節)

そして、患難の終わりに…、7年間！最初の3年半の間、イスラエルは完全に欺かれます。これが救世主であると思い、これが真の神殿であると思い、これが真の神への奉仕であると思います。そしてハーフタイムで、彼が自分の本性を現すとき、彼が神殿に入って行って、自分が神であるかのように崇拜されることを要求する時、彼らは大きな間違いに気がつきます。そして、彼らは言います。「申し訳ありませんが、私たちはあなたを崇拜しません」すると、彼は彼らを追いかけて、彼らを追跡します。彼らは黙示録12章にあるように、砂漠に逃げ込みます。聖書は、主が彼らの面倒を見ると述べています。主は、ご自分が準備をされ、彼らを養われる場所に彼らを置かれます。1260日の間。後半の3年半の間、イスラエルは守られます。そしてイエスが来られると、彼らはもちろん、イエスが戻って来るのを待ちます。彼らに準備ができた時に。私はいつもこう言います。「患難はイスラエルの救いのためです」私たちはここにはいません。イスラエルは、まだここにいます。国民として。彼らはエルサレムを失うこととなります。聖書によると、イエスが戻って来られるのは、エルサレムが分けられ、征服され、他の人々に踏みつけられるからです。彼らは主権を失うこととなります。反キリストがエルサレムから統治するからです。彼らは民主主義を失うこととなります。彼らはもはや国家ではなくなるからです。彼らの軍隊は、もはや役に立たなくなります。つまり…、彼らがいま持っているものは、すべて失われます。彼らは砂漠にいることとなります。そこで守られるのです。3年半の間。そして、彼らには準備ができます。もちろん、獣の印を受ける人たち、反キリストの一部となる人たちは滅びます。だから聖書は、ゼカリヤ13章で言っているのです。イスラエルの三分の二は死に絶える。神は残りの三分の一だけに、火の中を通らせます。

マタイ23章37節から39節

ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。(マタイ23章37節から39節)

十字架の上でさえも、彼らを呪うのが最も簡単なことであった時でも、主は決して彼らを呪われませんでした。面白いです。

第2歴代誌6章25節

天からこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らとその先祖たちにお与えになった地に、彼らを帰らせてください。(第2歴代誌6章25節)

ルカ23章34節

イエスはこう言われた。『父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。(ルカ23章34節)

イエスはイマーム（イスラムの指導者）でもなく、ある種の司祭でもありません。聖書によると、「イエスは王であり、大祭司です。」これらの要職は旧約聖書に埋め込まれています。そして、その二つの要職をともに務めた唯一の王は、救世主の予型で、メルキゼデクでした。覚えていますか。

ヘブル7章1節から3節

このメルキゼデクは、サレムの王で、すぐれて高い神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。またアブラハムは彼に、すべての戦利品の十分の一を分けました。まず彼は、その名を訳すと義の王であり、次に、サレムの王、すなわち平和の王です。父もなく、母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです。(ヘブル7章1節から3節)

イエスは祭司であり、同時に王であります。彼は必ずしもアロンからは出ません。コハニム(祭司階級)の血筋、レビ人の血筋ではありません。そうではなく、彼はユダ部族の出身です。彼の王国と彼の祭司職は、異なる階級のもので、メルキゼデクの位に等しいものです。キリストにあっては、ユダヤ人と異邦人の間に区別はありますか?私とあなたとの間に今、なにか違いがありますか?答えは「いいえ」です。

ローマ10章11節から13節

聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。(ローマ10章11節から13節)

アーメンですか?問題は、人々があなたにこう言おうとすることです。「キリストにあって、ユダヤ人と異邦人の間には違いがある。」違います。皆さんは、私が患難時代もずっとここにいたらいいなどと望んだりしない方がいいですよ。私はそのつもりはありませんから。

ガラテヤ3章26節から29節

あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。[キリスト・イエスにあって、私たちは皆一つです]もしあなたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。(ガラテヤ3章26節から29節)

神の前では、キリストにあって私たちは同じなのです。でも、キリストから離れている者を混ぜてはいけません。コロサイ3章は続けて言います。

互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いと一しょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。(コロサイ3章9節から11節)

だから、キリスト・イエスにあって、主の前で私たちがキリストを受け入れる時、ユダヤ人でも異邦人でも、私たちは同じです。私も同意します。しかしながら、キリストから離れていると、ユダヤ人と異邦人の間に区別はありますか?お分かりですか?「キリストにあって」は、私たちには違いは全くありません。ユダヤ人がイエスを信じる者になると、彼とあなたは同じです。あなたは彼より劣っていないし、彼もあなたより優れてはいません。けれど、私たちが世界のそのほかの人々を見て、神がイスラエルになさっていることを見る時、キリストから離れていると、そこに違いはありますか?もちろん、あります!そして、そこが、あの牧師が間違っているところです。聖書は述べています。

出エジプト33章15節から16節

それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身が一しょにおいでにならないなら、…

(出エジプト33章15節)

これはモーセがとても落胆していた時で、神はこう言われます。「よいか、あなたはここから進んでいけばよい。わたし自身がいっしょに行こう」

それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって[彼がそれからなんと言うか、注目してください]私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによるのではないのでしょうか。

(出エジプト33章15節から16節)

あなたは私たちを異なる者となるように作られた。あなたは私たちが際立つように作られた。人々が、私たちを通して、神がおられることを知るように。人々が、私たちを通して、神のみことばを受け取るように。人々が、私たちを通して、神の御子を受け入れるように。あなたが私たちと一緒にいてくださらないなら、いったい、私たちはどうして異なる者となれるのでしょうか？あなたが私たちと一緒にいてくださらないのなら、私たちは進みません。イタリア風のストライキです。

ローマ3章1節から4節。くり返しますが、区別がないと思っても、あるんです！

では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。[パウロが何と言っているか注目してください]それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるのでしょうか。(ローマ3章1節から3節)

今日のユダヤ人の不誠実さは、彼らを自分たちの土地に連れ戻すという神の忠実さを、無に帰するのでしょうか。

絶対にそんなことはありません。たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。それは、「あなたが、そのみことばによって正しいとされ、さばかれるときには勝利を得られるため。」と書いてあるとおりです。(ローマ3章4節)

ローマ9章1節から5節

私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。(ローマ9章1節)

パウロがこんなに強い言葉を使っているのは、これが初めてで、この時かぎりです。これから言おうとしていることが自分の思いつきではないことを人々に納得させるためです。それは彼のものではありません。それは完全に神の心であり、神の御言葉であり、神の御霊であり、神のみこころなのです。パウロは言います。

私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上にあり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。

(ローマ9章1節から5節)

ですから、大きな利点があるのです。でも、彼らは盲目になっています。そして、できることなら、私が呪われた者にさえなりたいと思います。それで彼らが見えるようになるのなら、それが可能だったらいいと思います。しかし、皆さんの中のだれも、他のだれかに取って代わることはできません。

エレミヤ31章。これは私がイランのムッラーたちに伝えなくてはいけないものです。私はイラン人ではなく、ムッラーたちに言っているのです。イラン人のほとんどは、彼らと同意見ではないからです。私はこう言います。

主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、一一主の御告げ一一イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で一つの民をたすことはできない。

(エレミヤ31章35節から36節)

言い換えれば、星があり、月があり、太陽がそこにある限り、イスラエルは神の前で一つの民である。それは変えられません。それは変わりません。それが唯一、変わる時は…。ところで、答えはここにあります。もはや彼らに次のものがなくなる時です。月、星、太陽。神がすべてのものを新しくされる時です。新しい天と新しい地と新しいエルサレム。聖書には、新しいエルサレムは太陽を必要としないと書かれています。新しいエルサレムを照らしているのはだれですか？キリストです。主はメノラ（燭台）です。その時、そしてその時になってようやく、イスラエルは、もはや神の前に立たなくなります。その必要がないからです。皆さん、ムッラーたちがイスラエルを破滅させたいなら、彼らはロケットを、月や星や太陽に向けるべきです。なぜなら、それらのものがなくなってから、ようやくイスラエルは存在しなくなるからです。理解しなくてはいけないのは、イスラエルを通して…、主が言われたこと。イスラエルを通して、神は国々を試しておられます。私が世界中を回って教え始める前に、神は、ハッキリと私に示してくださいました。どこに行っても、イスラエルについての教え方によって、彼らが神の御言葉（聖書）の残りの部分をどう教えるかが分かる。もし、彼らがイスラエルを無視したり、イスラエルを否定したりすれば、彼らは聖書のほかの多くの部分も無視し、否定するでしょう。イスラエルを通して、神は国々を試されます。

イザヤ43章5節から10節

恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。わたしは、北に向かって「引き渡せ。」と言ひ、南に向かって「引き止めるな。」と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。目があっても盲目の民、耳があっても耳しいた者たちを連れ出せ。（わたしはこれを形造り、これを造った。）連れ出せ。…すべての国々をつどわせ、諸国の民を集めよ。彼らのうちのだれが、このことを告げ、先の事をわれわれに聞かせることができようか。彼らの証人を出して証言させ、それを聞く者に「ほんとうだ。」と言わせよ。あなたがたはわたしの証人、一主の御告げ。一わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。（イザヤ43章5節から10節）

イスラエルは、神が世界の他の人々に、ご自分が神であることを伝える手段です。イスラエルを通して、神は国々を祝福されました。

イザヤ49章5節から6節

今、主は仰せられる。…（イザヤ49章5節）

私たちはすでにそれを聞いています。神はそれをアブラハムに約束されました。「あなたを通して、地のすべての国々は祝福を受けるようになる」

――主はヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、私が母の胎内にいる時、私をご自分のしもべとして造られた。私は主に尊ばれ、私の神は私の力となられた。――主は仰せられる。「ただ、あなたがわたしのしもべとなって、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」（イザヤ49章5節から6節）

皆さんにお話ししたい事があります。次のスライドは、とても細かい文字です。皆さんがこれを全部読む事ができるとは思いません。しかし、「1958年、アフリカの極貧諸国を訪問した後、ゴルダ・メリア首相は、イスラエルが途上国における飢餓、病気、貧困の緩和に努める事に決めました。1995年には、外務省とイスラエル国防軍によって、その目的のために、特別な緊急人道支援部隊が開発されました。この部隊は、数例挙げるだけでも、ケニア、アルバニア、メキシコ、コンゴ、ハイチ、日本、ネパールで業務を行いました。しばしば災害現場に最初に到着する事に加えて、この部隊は、最も過酷な状況下で、最先端の設備と高度に訓練された医療専門家による緊急医療を提供します。多くの場合、使命が完了し、イスラエル人が帰路につくと、それらの機器は、地元の医療従事者が使用するために残されています。」

しかしそれだけではありません。「最近のネパールでの医療任務の後、二度の壊滅的な地震ですべてを失い、住む場所のなくなった家族ら数千人のために、初歩的な住宅を提供するため、『すべての人に屋根を(Roof for All)』プログラムが設立されました。部隊はまた、複数の国でアイキャンプ (Eye Camp) を設置し、イスラエルの眼科医が、毎年、何百人もの患者に予防可能な失明や眼疾患のための治療を施しています。イスラエルが重要なニーズを認識すると、特別な活動が行われる事があります。2015年6月、台湾で台北市のウォーターパークで爆発が起こった際に、500人が重度のやけどを負いました。数週間がたっても400人がまだ入院中で、そのうち200人は重体で、皮膚移植を必要としていました。イスラエルは患者の傷に移植する網状皮膚を作るために使用される最先端の機器二台の寄付を調達し、また、その機器を使用する台湾人の医師の訓練もしました。医学の他の分野では、イスラエルは世界のリーダーとなっています。消化器系全体をスキャンする錠剤のかたちの小さなカメラ「ピルカム(カプセル内視鏡)」から、ガン治療における非常に有効な発展、抗生物質、またMSと糖尿病の治療における革新に至るまで、イスラエルは国々に、より良い健康と、より長い寿命を供給して祝福しています。ほとんど知られていない事ですが、2014年12月にイスラエルは、エボラとの闘いにおいて国際的なリードを取り、疾病に襲われたアフリカ諸国で、完全設備の整った診察所を数カ所提供し、地元の専門家を訓練するために、感染症の専門家を配置し…」

まだまだ続けて挙げる事ができます。何が起きているか、お分かりですね?そして、イスラエルを通して、神はご自分が忘れられた時のご自分のねたみを示されます。その真実を隠さないようにしましょう。
申命記4章26節から31節

私は、きょう、あなたがたに対して、天と地とを証人に立てる。あなたがたは、ヨルダンを渡って、所有しようとしているその土地から、たちまちにして滅びうせる。そこで長く生きるどころか、すっかり根絶やしにされるだろう。（申命記4章26節）

神はこう言われます。「わたしは皆に知ってほしい。あなたがわたしの道を歩くなら、あなたは約束の地に住まうだろう。しかし、あなたがそうしないなら、あなたは自分自身の上に破壊と裁きをもたらす」イスラエルを通して、神はご自分の赦しを示されます。ユダヤ人はキリストを拒否しました。それでもキリストは、神に彼らを赦してくださるよう願いました。

第2歴代誌7章12節から15節

主が夜ソロモンに現れ、彼に仰せられた。「わたしはあなたの祈りを聞いた。また、わたしのために、この所をいけにえをささげる宮として選んだ。もし、わたしが天を閉ざしたため雨が降らなくなった場合、また、いなごに命じてこの地を食い尽くさせた場合、また、もし、わたしの民に対して疫病を送った場合、わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。今や、わたしはこの所でささげられる祈りに目を留め、耳を傾けよう。(第2歴代誌7章12節から15節)

イスラエルは世界に対し、神の寛容なご性質を実証しました。それだけではありません。神はイスラエルについて心変わりをされたのでしょうか?彼らを約束の地に連れ戻すとあれほど約束された後で?新約聖書は新しい神を提示しているのでしょうか?

ローマ人への手紙11章

すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。[その答えは?]絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。(ローマ11章1節から2節)

詩篇94編14節

まことに、主は、ご自分の民を見放さず、ご自分のものである民を、お見捨てになりません。

(詩篇94編14節)

第1サムエル12章22節

まことに主は、ご自分の偉大な御名のために、ご自分の民を捨て去らない。主はあえて、あなたがたをご自分の民とされるからだ。(第1サムエル12章22節)

では、人はイスラエルを愛し、支援しながら、それでも間違っている事があるのでしょうか?もちろんです。そして、私はあなたがた異邦人に…。ところで、今、皆さんの中に異邦人は何人いらっしゃいますか?分かりました。ユダヤ人は何人いらっしゃいますか?一人。わかりました。結構です。人はイスラエルを愛して、支援しながら、それでも間違っている事があるのでしょうか。もちろんです。あなたが、いわゆる「二契約(神学)」を提唱するなら…。二契約神学がどういうものか知っていますか?それは、二つの異なる契約がある事を示唆しています。したがって、異邦人にとってはイエスによるもので、イスラエルにとっては、別の何かによります。皆さんに言うておきたいのですが、イエスご自身、ヤシュア、救世主が、次のように言われたのは、ユダヤ人の人々に対してです。

人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネ3章3節)

新約聖書の中でではなく、預言者イザヤの書において、神はこう言われます。「彼の死によってのみ、世の罪は処理される事ができる」また別の問題もあります。「ユダヤルーツ」の働きと律法への逆戻りです。とても多くの異邦人が、どういうわけか、ユダヤ人になりたがっています。そして彼らは、私の事を批判するんです。私が朝食に食べる物の事で。聞いてください。聖書には、旧約でも新約でも、律法を守る事によって救われたという人の例はひとつもありません。実際、聖書はこう語っています。「だれも律法を守る事はできません。律法は聖なるものだ」そして、あなたがひとつでも律法を犯すなら、それはすべてを犯したのと同然です。律法を全うされたのは、唯一、「イエス」だけです。イエスには罪がなかったからです。だれもが生まれつきの罪人なのですが、罪人である人にはだれも…。神が私たちに律法を与えられたのは、私たちが律法を全うするためではありません。律法とは何でしたか?それは、自分には救い主が必要だと理解するための鏡でした。自分ではできない事を。では、中にはどんなことをする人たちがいるのでしょうか。彼らは、異邦人が律法を守り始めるべきだと提案するのです。彼らは「あなたはこうでなければならない。ああ

しなければならない」と言うのです。それは「イエス+（プラス）」の動きです。「イエスを信じなさい。それに加えて、これをやって、これとこれをやって、これをやるんだ」面白いのは、聖書のローマ11章でこう書かれていることです。

**彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。
(ローマ11章11節)**

非常に多くのクリスチャンが、むしろ、ねたみにかられています。イスラエルにねたみを起こさせるのではなくて。そしていうまでもなく、カルトの第1のしるしは、キリストの神性を否定することです。ユダヤ人はイエスを拒みました。救世主として拒んだではありません。ところで、彼らには何の問題もありません…。イエスが「わたしは救世主である」と言ったために石打ちにされたことは、一度もありませんでした。彼らがイエスに対して抱いていた問題は何だったのでしょうか？自らを神と同等にしたことです。それが冒涇でした。彼らには、それは受け入れられませんでした。彼らはその概念を理解していなかったからです。それは旧約聖書に書かれているにも関わらず、ミシュレー、つまり箴言に書かれています。「だれが天に上り、また降りて来ただろうか。だれが水を衣のうちに包んだらうか。その名は何か、その子の名は何か。あなたは確かに知っている」（箴言30章4節参照）聖書がそう言ったのです。聖書は預言者イザヤの書で語っています。彼は言います。

ひとりの男の子が、私たちに与えられる。(イザヤ9章6節)

そして彼は、神の名を語ります。

「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」(イザヤ9章6節)

それから？支配者の好意を得るために、彼らはキリストの神性を否定します。つまり、最も重要なことが、否定されているのです。では、異邦人はイスラエルに恩義がありますか？(皆さん、そういう姿勢ですね)

「あー、私はそんなの聞いたことがない」

ローマ15章25節から27節。パウロは「聖徒たちに奉仕するためにエルサレムへ行こうとして」いると人々に言っています。

それは、マケドニヤとアカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために^{きよきん}贖金することにしたからです。(ローマ15章26節)

彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対しては、その義務があるのです、とパウロは言います。なぜでしょう？

異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです。(ローマ15章27節)

「まあ、それは聞いたことがない」いや、聖書にそうあるのですよ。さて、もし私が人を操る名人だったら、私は献金の前にこの聖句を引用していたでしょう。そうする人たちがたくさんいるんです。いいえ、それは終わり頃に言われるべきです。なぜなら、それは真実であり、それから逃げることはできないからです。「私はその聖句は好きではない」じゃあ、あなたは神のみことばを受け入れられないということです。イスラエルに対するあなたの姿勢は重要です。イスラエルを支持することは、あなたに犠牲を払わせませぬ。イスラエルを支持することは、あなたに永遠の報いを与えるでしょう。この地上でではないかもしれませんが、それは報われます。その理由は、旧約聖書にも、新約聖書にもあります。聖書に書かれているのは、神はすべての国民を裁かれるとき、神は彼らをヨシャパテの谷に連れ下る。ヨエル書3章。預言者ヨエルです。英語で

は第3章です。ヘブライ語では、第2章の終わりです。なぜ皆さんがそれを変えたのかわかりませんが、まあ、いいでしょう。そして、彼はこう言います。

わたしはすべての国民をヨシャパテの谷に連れくんだり、(ヨエル3章2節)

ヨシャパテ…、エルサレムのキドロンの谷です。「私は、彼らがわたしの民とその地をどのように扱ったかに従って、彼らを裁く」神は言われます。

その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。彼らはわたしの民をくじ引きにし、子どもを遊女のために与え、酒のために少女を売って飲んだ。(ヨエル3章2節から3節)

マタイ25章は、新約聖書においてヨエルに相当します。イエスは25章31節から46節で言われます。王(人の子)が来て、羊と山羊とを選び分けます。彼らが彼(王)の兄弟たちの最も小さい者たちにしたこと従って、あなたは神が愛するものを憎むことはできません。さもなければ、あなたは神が憎むものを愛することになるでしょう。

イザヤ49章(14節から17節)

しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた。」と。「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。あなたの子どもたちは急いでくる。あなたを滅ぼし、あなたを廃墟とした者は、あなたのところから出ていく。」

(イザヤ49章14節から17節)

ゼカリヤ2章8節から9節

主の栄光が、あなたがたを略奪した国々に私を遣わして後、万軍の主はこう仰せられる。「あなたがたに触れる者は、わたしのひとみに触れる者だ。見よ。わたしは、こぶしを彼らに振り上げる。彼らは自分に仕えた者たちのとりことなる。」と。このとき、あなたがたは、万軍の主がわたしを遣わされたことを知ろう。

(ゼカリヤ2章8節から9節)

詩篇17編(6節から9節)

神よ。私はあなたを呼び求めました。あなたは私に答えてくださるからです。耳を傾けて、私の申し上げることを聞いてください。あなたの奇しい恵みをお示してください。立ち向かう者から身を避けて右の手に来る者を救う方。私を、ひとみのように見守り、御翼の陰に私をかくまってください。私を襲う悪者から。私を取り巻く貪欲な敵から。(詩篇17編6節から9節)

教会とイスラエルは共通の未来を持っています。イスラエルは一番最後に救われます。そして、イスラエルが救われなければならないから、そして、イエスは彼らが御名を呼び求めて「バルハバベシエム アドナイ」「祝福あれ。主の御名によって来られる方に」と言うまでは、戻って来られないのですから、そのために反キリストは、彼らを破滅させたがっているのです。再臨を防ぐために。反キリストは、聖徒とイスラエルだけを狙っています。患難時代の初めから終わりまで、運命共同体です。もちろん、患難時代の聖徒のことです。そして、私は皆さんに言いたいのですが、すごく私が気になるのは、多くの異邦人が、とても不自然にイスラエルを愛そうとすることです。彼らはイスラエルを利用して、自分を売り込みます。彼らはイスラエルを利用して、資金を集めます。彼らはイスラエルを利用して、自分の名前を広めようとします。私が言おうとしているのは、あなたが神の子どもたち、神の民に、イスラエルを支援するように呼びかけるとき、それは、あなたやあなたの動機とは何の関係もありません。それは、全面的に神の戒めに関わるものです。そ

れだけです。他のものを宣伝するためにイスラエルを利用してはいけません。イスラエルを祝福するためということで、非営利団体を始めた人たちを私が何人知っていると思いますか？彼らは結局、自分たちの銀行口座を祝福してしまいました。私は彼らのことをうらやましいとは思いません。患難の終わりに、イスラエルはみな救われます。したがって、私たちが覚えておくのは、彼らが教会と一緒に千年王国で、千年間にわたって統治することになることです。皆さんは、彼らと仲良くした方が身のためです。私は皆さんに知ってほしいのですが、あなたのイスラエルに対する態度は、あなたが御言葉の他のあらゆる側面に対してどのような態度をとるかを、神が見るための方法であるのです。もしも、あなたが「これは私には合わない」とか「うん、これは私に合う」「これは合わない、これは合う」と言い始めたら、あなたがイスラエルに対してそうするならば、聖書のほかのすべての部分に対してもそうするのです。イスラエルはこれまでも、今も、これから、神の前でひとつの民であり、神は決して彼らを見放さず、彼らを見捨てません。終わりに、神がすべてのものを新しくされるまで。皆さんが理解しなくてはならないことがあります。私が決して、今までの人生において一度も言ったことがないのは、イスラエルが救い主を認めなくても救われるということです。事実、イスラエルがみな救われるとき、それは、「彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見」るからです。ゼカリヤ12章です。

**彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、彼らは嘆き、激しく泣き、悔い改める。
(ゼカリヤ12章10節)**

ですから、パウロが「イスラエルはみな救われる」と言ったのは、彼らが救世主を信頼するからです。彼らが自分たちが突き刺したお方を認めるとき。

お父様、あなたの御言葉をほんとうにありがとうございます。あなたの御言葉は真理です。私たちは、ただあなたの真理によってのみ聖められることを望みます。私たちはイスラエルの国のために、あなたに感謝します。私たちは、あなたが地球上のすべての信者に、イスラエルを支持し、彼らの土地に対する権利のために戦うよう、命じられたことを感謝します。彼らが非常に正しいからでも、彼らが非常に信心深いからでもなく、あなたが彼らのためにご計画を持っておられるからです。あなたが彼らを取り扱われます。彼らを自分たちの地に連れ戻されたのは、あなたです。そうです。あなたによって定められた神から授かる権利があります。なぜなら、キリストから離れていると、まだ大きな違いがあるからです。

お父様、私たちはあなたに感謝します。キリストにあっては、ユダヤ人も異邦人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人も、主人もありません。キリストにあって、私たちは皆、ひとつです。しかし、敵は混乱させようとし、欺こうとし、言うまでもなく、あなたの計画が実行されるのを阻もうとしています。そして、そのための最善の方法は、過去にもそうであったし、現在もそうであり、そしておそらく未来にもそうであるように、イスラエルを排除することです。イスラエルはあなたの証人だからです。彼らがあなたを受け入れ、あなたの御名を呼び求めなければ、あなたは戻って来られません。ですから、お父様、私たちは、すべて「しかり」であり、「アーメン」であるあなたの御約束に感謝します。私たちは、敵のすべての計画が決して成功しないことを感謝します。彼らには、幾分恥ずかしい思いをさせることができるとしても、それは非常に短い間で、長期的には、私たちの神が支配されることを私たちは知っています。神は王座に着かれていて、変わることはないお方です。従って、ヤコブの子孫は滅びうせません。今朝、あなたの名前を祝福します。私たちはあなたに感謝し、この全てのことをお祈りします。

イスラエルの聖なるお方、ゼカリヤ、イザヤ、エレミヤ、ホセア、また、その他大ぜいを通して約束された救世主の、比類のない美しい御名において。

私たちの救いであるヤシュアの御名によって、お祈りします。

神の民は皆、声を揃えて、
「アーメン」

ソーシャルメディアで私たちがフォローしてください。(英語)

インスタグラム: <https://www.instagram.com/beholdisrael/>

フェイスブック: <https://www.facebook.com/beholdisrael/>

ツイッター: <https://twitter.com/BeholdIsrael>

ウェブサイト: <https://beholdisrael.org>

アミールの著書予約: <https://www.barnesandnoble.com/w/the-...>

アミールの著書購入, "The Last Hour": <https://shop.beholdisrael.org/collect...>

DVDおよびデジタルダウンロード: <https://shop.beholdisrael.org>

最新の中東ニュース: <https://beholdisrael.org/news/>

聖書の教え: <https://beholdisrael.org/watch-and-li...>

記事: <https://beholdisrael.org/articles/>

世界各地での聖書の教え: <https://beholdisrael.org/teaching-aro...>

聖書体験ツアー: <https://beholdisrael.org/bible-experi...>



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.11.06 (Wed)